

# 報告

## 地域医療確保のための住民活動に関する 懇談会

常任理事・医療政策部長 直江 寿一郎

平成21年度から郡市医師会との共催により、高齢者の医療問題や救急医療などを住民とともに考える「地域医療フォーラム」を開催してきた。本年度は、2月19日（日）に、地域の医療を守る住民運動を展開している団体との懇談会を開催し、意見交換を行うとともに、各地域の活動の連携を模索した。

今回お集まりいただいたのは、留萌がんばるかい（森事務局長）、紋別の地域医療を育て守る会（横内世話人）、公立芽室病院をみんなで支える会（鳥本会長）、ねむろ医心伝信ネットワーク会議（池田研修部会長）の4団体6名である。以下に、懇談会の概要を報告する。

### 活動のきっかけ

**留萌がんばるかい**：膵臓癌で闘病していた叔母が公立病院を死守するようという遺言を残したことが活動を始めるきっかけになった。その当時は、2つの離島を抱える留萌二次医療圏の地域医療を支えている留萌市立病院に対して感謝するべき住民が、全国約1,100の自治体病院中ワースト9位の財政状態であることを誹謗中傷していた。人口が減少し1人当たりの赤字額が相当になり、街には不満というより閉塞感が蔓延していると感じた。

**紋別の地域医療を育て守る会**：道立紋別病院が医師不足により病院機能を縮小し二次救急患者の夜間・休日の受け入れを停止したこと、平成21年に紋別市休日夜間急病センターが公設公営で開設されたが、常勤医師の確保に苦慮していた状況等から、紋別の地域医療全体を守るため、友人に声を掛け、まず、自分たちのために医療について勉強することを始めた。参加する人が増えたことを機に大きな活動ができると思いを発足した。

**公立芽室病院をみんなで支える会**：町民が公立芽室病院は町の運営する病院なので、あって当たり前、住民サービスの1つぐらいにしか考えておらず、待ち時間が長い等、不満ばかりを口にしており、それを解消する役割を担うことができればと病院の運営委員会メンバーが中心となり、昨年1月に設立準備会を設け、町民に入会を呼び掛けた。また、一昨



年に内科医が6人から3人に半減し、過重労働から体調を崩す医師もおり、他の地域で医師の一斉退職等で地域医療の崩壊が起きていることに危機感を持った。

**ねむろ医心伝信ネットワーク会議**：平成19年に市立根室病院の常勤医師が6名に減少したため、市長が全国の大学や関係機関に足を運んだが、医療関係者に「根室は市民の対応が悪い。医師を大切にしない」という風評が広まっており、医師確保に苦労していた。根室に赴任した医師に対して、市民が一丸となり歓迎・交流するホスピタリティー運動で医師の安定確保を側面から応援し、「安心して医療が受けられ、根室に住み続けられる」ことを実現するために会が設立された。

### 現在までの活動

**留萌がんばるかい**：すべての自治体病院が応用できるモデルケース確立のため、スタッフ確保、広報力の強化、園芸療法の確立の活動をしている。スタッフ確保ではお金を出して働いてもらうのではなく、地域PR・地域づくり等の延長上で人材を確保できる方法があれば良いと考え、医学生等を対象に留萌市立病院見学ツアーを実施し、院内実習のほか、留萌市周辺を案内し住民と触れ合ってもらっている。広報については、市民が自分の町に来てくださいという広報と、市民が何も分からない状態で市立病院を批判していることもあるので市民の視点で医療を伝える広報も必要であると考え作成している。園芸療法については、増毛町の「リハビリ・リンゴ園」で、ハンディキャップを持った人やその家族、医療人で日本最北のリンゴを栽培している。今後は最北を強調し、加工し商品価値を高めて販売し、その利益をリンゴ園の運営資金や研修に来る学生に回す仕組みをつくりたいと考えている。農業は農地法の制約があるので、農業者が中心となった留萌がんばるかいの兄弟組織を作り、医療と農業の連携を進めている。現在、この活動は農林水産省の支援事業となり、学生の交通費全額を賄い、運営面では自動車メーカーのトヨタ財団から支援してもらっている。「住んでよし・訪れてよし」自分たちが住んで楽しいし、客として訪れた時にも楽しい街づくりをしたいと

思っている。

**紋別の地域医療を育て守る会：**市民に意識を持ってもらうため、市長や紋別病院長を交えての例会や市内の診療所長や看護師による地域懇談会を実施し、自分たちの活動を理解してもらおうと「かわら版」を発行している。また、紋別市が65歳以上の独居世帯に無料配付している「命のバトン」について地域懇談会等で普及推進とコンビニ受診にストップをかける啓発活動をしている。医師確保については、各地区が医師の奪い合いで終わってしまうのではないかという思いがある。地域医療の主役は住民で、住民の意識で地域医療を守ることも、崩壊させることもできる。講演会に参加しない人に問題があるので、今後は各地区に出掛け、小さな単位で説明をして住民に広めていきたいと思っている。

**公立芽室病院をみんなで支える会：**「できることから行っていこう」と会員向けの『支える会つうしん』を現在まで3号発行した。その他に環境美化のボランティア活動として、病院の正面玄関脇と北側の壁に設置されている花壇を整備し花を植えるとともに、週1回ロビーに生け花を生ける等、まずは病院を花で飾った。待ち時間が長いという不満を少しでも解消できればと小学生の絵画と書を借り、病院のロビーで作品展を開催した。また、院長や看護師長等にも参加してもらい病院と会員との意見交換会を実施し、病院の機能、医療機器や可能な検査等の説明を受けた。今後は、健康管理や予防に関する講演会を開催する予定である。

**根室医心伝信ネットワーク会議：**交流部会と研修部会を設置しており、交流部会は、魚介類や肉を持ち寄り医師と会員とのパーティーを開催したり、家族と一緒に風蓮湖でわかさぎ釣り体験等を通じて楽しんでもらうことから始めた。また、根室を去った医師とつながりを持つため特産品等を送り、「先生が根室に来ることができなくても、仲間に根室の良さを紹介してください」と呼び掛けている。研修部会では、医師と相談し、各地域で医師に講演してもらうミニ講演会を開催したり、コンビニ受診や安易な救急車利用を控えることを呼びかけたことで、軽症者の受診や救急車利用が減った。これらの活動を通じて、医師も「根室の人は良い人だ」と認めてくれるようになり、医師と会の信頼関係ができた。

#### 意見交換

会の設立当初は、活動の協力を病院の事務に依頼しても、医局や医師には遠慮がちとなり「医局にお願いする立場にない」と話が先に進まないこともあったが、今は理解・協力してもらいスムーズにいくようになったという報告があった。

根室が行っている交流会は、お互いのコミュニケーション不足が誤解を生み関係が悪化していた部分を、会話する機会を設定することで住民側の不満も少し解消されているようである。しかし、多忙な

医師にこれ以上の負担をかけてもいいのものと開催を悩んでいるとの発言があったが、医師の立場からは、ひとつのきっかけとしてそのような場を積極的に活用いただければ医療はもっと身近なものとなるので、あまり気を遣う必要はないのではないかとコメントした。

また、心ない医師の一言や看護師等の対応が患者の感情に大きく影響することから、医療機関側に対して医療スタッフへの指導の重要性が求められた。これに対して、長瀬会長は、年数回各地で「患者接遇に関する講習会」を開催し医療従事者に対する教育を行っており、今後も継続して実施すると答えた。

さらに、地域で活動する団体が集まってこのような話をできるとは思ってもしなかった。道内には、まだこれから会を立ち上げようとしている所もあるので、情報を集め連携を取れるようにしてもらえれば心強いし、いろいろと創造して新しい活動ができると思うとの要望もあった。

最後に、宮本副会長から、以下の総括が述べられた。地域の人たちが自分たちの地域をどうするか、地域の医療は自分たちのものなのだから街づくりのひとつとして病院はどうあるべきか、自分たちはどう支えるかという視点が大切。その思いがないと、医者を確保しても定着は難しい。北海道医報に道外出身者が北海道に移り住んだきっかけ等を掲載しているが、住環境へのあこがれがかなりあり、勤務条件や給与面以上に生活環境を重視している方も多くいる。自分たちが支えている病院だという意識を持ち、地元の人が病院を支え、その病院に掛かるという環境作りが大事である。各団体の活動は大きな力になると思うので、医療を守る仲間としてぜひとも活動を続けてもらいたい。本日の会が第一歩になって、全道的に活動を広め、各地域の団体が問題等を話し合えるよう当会もサポートしていきたいと考えている。



本懇談会では、各団体から地域事情や会の活動状況等を詳細に伺うことができた。各団体が取り組まれている交流会や講演会等のように、普段から医師と患者のコミュニケーションが円滑に行われていれば大きな問題には発展せずに解決できそうな部分も含んでいるように見受けられる。やはり医師と地域住民との「顔の見える関係」は重要なポイントとなるのであろう。

崩壊の危機が叫ばれている地域医療体制を医療関係者、行政、住民が一体となってみんなで守るという意識を持ち、さまざまな活動を行っている各団体に敬意を表したい。

当会では、今後とも地域医療を守るための住民組織の活動に注目し、行政や関係団体と連携を図りながら、難問山積である医師確保対策と合わせ、地域医療の確保に向けて全力で取り組む所存であるので、会員各位のご支援・ご協力をお願いしたい。